

## 山口御屋形〜取り潰されて、また建てて…

毛利敬親は中河原の御茶屋で政治をとっていましたが、そこはあくまでも仮住まいでした。山口にふさわしい城を造ろうと、藩主の山口移住と新しい御屋形の造営を幕府へ申請しました。7月にその場所を決めると、萩城の一部を解体して山口へ運び始めました。

元治元年（1864）1月15日、山口新屋形の鉄始めが行われました。造営にあたっては各地から人が集められました。すすんで協力した者もいれば、命じられて協力した者もいました。

小郡宰判には日雇いの者を50人ほど差し出すようにと命令がありました。しかし宰判内には日雇い稼ぎの人が少なかったため、農閑期の百姓が日雇い稼ぎに出るようになりました。その後6月の田植えで忙しい時期は山口市街まで出ていくだけでも遠いので協力できる者がなく、どうか免除してほしいと15人の庄屋が名を連ねて藩へ願いを出しました。しかし藩は人夫が集まらなければ工事が進まないで、急いで人夫をさしだすように迫り、当時の大庄屋が大変苦悩したという記録があります。

手斧始は5月27日に行われました。建築は馬関戦争で8月6日に一時中止しましたが、9月18日に書院ができ、10月16日に完成しました。



幕末の志士がぐり抜けたであろう藩庁門、左にお堀が見える。

しかし久坂玄瑞が亡くなった禁門の変の後の第一次長州征伐で幕府より山口城の破却を命じられ、せつかくできていたのに同年（1864）12月には壊されました。

慶応2年（1866）5月15日：約一年半半後、ふたたび完成した山口御屋形に毛利敬親は御茶屋から移りました。

山口御屋形は、天守閣がそびえる城ではなく、大砲を据えて敵に備えるため、北と西の山を天然の要害とし、堀や土塁をめぐらし、八角形に近い敷地の西洋式城郭として造られました。四境戦争直後の6月始まりでしたが、ここが司令部となりました。

## 新作DVD紹介 山口の迎賓館 菜香亭〜近現代山口のあゆみ〜

### 大内文化特定地域と豎小路界隈

室町時代、西の京とうたわれ、大内文化が開いた山口。時代をこえて育まれてきた歴史の町は、大内氏がつくった都市の名残りをとどめつつ、落ち着いた佇まいをみせています。

山口市中心市街地の「豎小路」地区は、中世・近世・近代を通じて歴史的な主要道となり、町屋が軒を連ねにぎわいました。現在では歴史的町並みとしての姿が次第に失われつつある一方で、文化財等の歴史資源が多く残り、経済・文化等への波及効果が期待される「大内文化特定地域」の中核的な地域にあたります。

### 幕末から明治へ〜山口の変貌期に生まれた菜香亭〜

山口市菜香亭。その建物はかつて山口の迎賓館たる料亭として、まちの歴史を暖簾に織り込んできました。そのあゆみは、幕末から明治にかけて、山口の町が再び防長2国の拠点となる時期に始まります。幕末、藩主毛利敬親が藩庁を萩から山口に移し、藩の拠点づくりを進めたことから、近代における県都山口への基礎が築かれていきました。

明治10年頃、齊藤幸兵衛は上豎小路・八坂神社の一角に料亭を開業しました。県庁所在地として全国から来訪者を迎えるための、迎賓館としての役割が期待されたのでしよう。

### 菜香亭のあゆみを通して、山口の歴史をたどる

明治維新150年という節目を前に、大内文化特定地域を中心とした歴史について、菜香亭のあゆみを通してたどる映像作品「山口の迎賓館・菜香亭〜近現代山口のあゆみ〜」としてまとめられました。（NPO法人歴史の町山口を甦らせる会制作、山口市大内文化特定地域活性化事業補助事業）



八坂神社境内隣接地に菜香亭は120年余の歴史を重ねました



往年の町並み・歴史を記録・再現した「豎小路界隈園」



「萩往還」でもある豎小路

## 夢の隠居所 野田御殿 ↓現在の山口市菜香亭の所

明治2年6月4日、毛利敬親は家督を譲って隠居しました。7月2日、野田に敬親の隠居所を作ることが決まりました。



今の山口市菜香亭のところに明治2年から大正5年まで「野田御殿」と呼ばれた毛利のお殿様のお屋敷がありました。

### 敬親公が眠る毛利家墓所



神道のお墓の形。江戸時代までのお墓とは形が違います。

毛利敬親は明治4年3月28日山口御屋形で亡くなりました。そのときには野田御殿は完成していたのですが、結局ここへ住むには至りませんでした。

野田御殿はその後、東京へ移住した毛利家の野田別邸として、子元徳や孫元昭が山口訪問の際に利用し、ここに明治天皇をお泊めしたこともありまし



菜香亭主人 齊藤幸兵衛はよい料理人じゃった！

※菜香亭の創業者は敬親公のお抱えの料理人でした。

毛利敬親の墓は、瑠璃光寺五重塔がある香山公園のそばにあります。

敬親以前の藩主の墓は萩市の大照院と東光寺にあります。敬親以降はここにあります。

毛利敬親夫妻、毛利元徳夫妻、毛利元昭夫妻の墓がならんでいます。

この映像作品を通して、近代以降の大内文化特定地域の歴史的・景観的価値について改めて見つめなおし、歴史遺産の継承・活用につなげていただければ幸いです。

### 【内容の一部】

- 県都山口誕生／学都山口の伝統
- 42連隊の駐屯と豎小路界隈
- 山口の迎賓館・料亭菜香亭
- 各界の名士をもてなした洋食
- 佐藤栄作が好んだ故郷のもの
- 移築前の菜香亭の様子
- 閉業と移築保存の経緯
- 山口市菜香亭開館10周年のあゆみ
- 迎賓館の継承〜菜香亭跡地・築山跡調査

貴重な書・絵画・器などの所蔵品や建物の特色についてもわかりやすく紹介し、ゆかりの方々のインタビュー映像を収録、時代の証言に触れることができます。

### 現在 菜香亭で常時上映しています。

訪れた人びと、もてなした文化、菜香亭のたどった歴史について、ぜひご覧ください。

### ほたる工房〜デジタルアーカイブの取り組み〜

山口市菜香亭指定管理者・NPO法人歴史の町山口を甦らせる会は山口市大殿大路の「ほたる工房」に事務局をおいています。デジタルアーカイブ事業として、県内の文化・芸術・学術・産業などの研究を深め、デジタル化・データベース化を進めており、今回のDVDもこれまでに蓄積された映像・情報を生かしています。



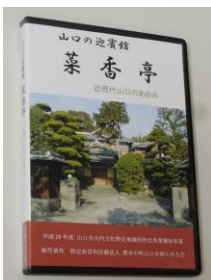
100畳敷の空間に刻まれた歴史、育まれた文化の世界へと誘います



今はなき新館の庭園にそびえ立っていた「豊後岩」-迎賓館のシンボル？



ミュージアムショップでDVDを販売予定



ホタルをモチーフにデザインされた再生町屋「ほたる工房」も10周年を迎えました



山口市菜香亭だより

# 西の菜時記

平成27年6月30日発行  
第37号  
発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会

山口市菜香亭だより

# 西の菜時記

平成27年6月30日発行  
第37号  
発行元：山口市菜香亭  
指定管理者  
特定非営利活動法人  
歴史の町山口を甦らせる会